

第2回緑が丘こひつじ保育園園舎増築工事及び児童発達支援センター開設に関する説明会での質疑応答

2023年2月18日に開催しました第2回緑が丘こひつじ保育園園舎増築工事及び児童発達支援センター開設に関する説明会の質疑応答について掲載いたします。
第1回住民説明会で頂戴しましたご意見やご要望を踏まえ、計画の見直しと変更案についても掲載いたしますので併せてご確認ください。

開催日時：2023年2月18日（土）午後2時から3時30分

法人側出席者：理事長 堀口路加、業務執行理事 千葉 諭、業務執行理事 岸部徳子、児童発達支援管理責任者 川口美代子、株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所東京事務所副所長 佐々木 真

◎第1回住民説明会後の計画の見直しと主な変更点

【設計関係】

(1)南側住宅地への送迎車両の通り抜け及びゲートの見直し

- ①児童発達支援センター及び放課後等デイサービスを利用する児童送迎車両通行用として計画していた、住宅地側への通り抜けとそれに伴うゲートの設置を中止し、車両の出入りは全て商業地側に集約します。
- ②玄関での話し声に対する懸念に対応するため、玄関ポーチ西側を壁で覆う他、南側住宅に面して高さ約2mの防音壁の設置と常緑植栽を植え、音と視線への不安に対処します。
- ③西側隣接地に対する子どもの抜け出し対策用フェンスの設置及び常緑植栽については隣接住宅の方のご意見をお聞きした上で実施します。

(2)菜園計画を中止し植栽ガーデニングに変更します。

(3)保育・療育中の音の心配に対する説明とその対応策

- ①保育園の増設園舎及び児童発達支援センターの住宅地に面した窓は二重窓とする他、南側住宅地に面していた高窓は園庭側に向けた高窓に変更します。
- ②園庭の中心から半径20メートルの同心円を描いた場合、敷地外への音は26dB～28dB減衰します。敷地断面図を分析したところ、建物で囲うことで園庭の音は南側住宅地の屋根を超えて飛散することがわかります。さらに建物と建物の間は防音壁を建てる他、児童発達支援センター南側住宅に面する部分には高さ2mの防音壁(減衰効果17dB)と植栽を巡らせます。

(4)北側道路に面した保護者駐車場の交通整理員の配置

保育園定員増後は、利用定員が増えることで送迎車両の増加が予想されます。緑が丘小学校に通う地域の子どもの安全を確保するため、小学校の登下校時間や当施設の登降園時間に合わせて交通整理員を配置します。又、保護者に対して通行時の徐行や住宅地側への侵入禁止を呼びかける他、近隣学校との連携を図って参ります。

【保育・療育関係】

(5)療育の主な内容（園庭での外あそびや行事開催について

①療育の主な内容

児童発達支援センターおよび放課後等デイサービスでは、様々な療育支援プログラムを提供し、子どもの発達を促します。1クラス10名前後の構成とし、身辺自立や社会性、他者とのコミュニケーション能力を高めるためのソーシャルスキルトレーニングや作業療法、ビジョントレーニングなどを提供します。具体的には、ごっこ遊びや工作、体幹を鍛えるための運動あそびなどを予定しています。

②緑が丘こひつじ保育園および児童発達支援センター・放課後等デイサービスの一日の流れ

2月2日の近隣住宅ポスティング資料では、園庭を昼の時間帯に児童発達支援センター・放課後等デイサービスで使用する説明としていましたが、計画の一部を見直し、午前は、9時30分から11時30分、午後は15時30分から16時とし、児童発達支援センター・放課後等デイサービスも保育園と同一の時間帯の中で活動を行うことを考えています。

③園庭での外あそびや行事開催

運動会などの屋外行事の音を心配する声がありますが、音は建物や防音壁の設置や植栽、距離などにより減衰することから園庭での外あそびや行事開催については、建物や防音壁、植栽等による音の減衰レベルを精査した上で結論を出す方法もあると考えています。こうした事を踏まえ、開設後も地域の皆さまのご意見をお聞きしながら検討したいと考えています。

(6)放課後等デイサービスへの不安に対して

18歳までお預かりする放課後等デイサービスに対する不安とともに利用年齢について引き下げの要望がありましたが、当法人でも改めて小学生から中学生・高校生が同一空間で生活を送ることの課題を再検討しました。その結果、放課後等デイサービスの利用年齢を小学6年生までに引き下げていくことも考えざるを得ないかと思えます。中学生から高校生の放課後等デイサービスも本当に大切ですが、反対意見や不安な思いをお聞きしていると本計画からを修正し、別途検討することが良いのかもしれないと考えています。

今後も特別支援学校や地域の放課後等デイサービスなどとも連携しながら、中高生年齢の発達障害について知っていただくことができる機会を設ける努力は続けていきたい考えです。

【その他】

- ①今後の行政申請および工事スケジュールについて、第1回住民説明会の際に、2つの計画が同時に並行して進むような誤解を与えたかと思いますが、第1期工事（2023年度）は緑が丘こひつじ保育園増設工事、第2期工事の児童発達支援センター及び放課後等デイサービス施設新築工事は2024年度の計画をしています。
- ②工事期間中に工事車両が南側住宅地側に進入する懸念がありましたが、原則、工事中は工事車両がクオンガーデン側に進入はしない計画とします。又、工事の安全・通行管理を徹底し対応窓口を設置します。

◎質疑応答の内容については、意見、質問、要望の趣旨に影響のない形で若干の修正を加えていますことをご承知ください。

意見・質問・要望の別	意見・質問・要望の内容	説明・回答
質問	1丁目10番というブロックは西側が高く、東側に緩い勾配で下がってきています。菜園は、植栽ガーデニングに変更するとありますが、資料ではその場所が隣地住宅地より高い位置に見えます。植栽ガーデニングの位置を隣地より高くするというのでしょうか。	グレー色で示した地盤色の範囲に誤りがありました。地盤を高くする予定はなく、現状の地盤の高さは隣地より低い位置にあり、隣地の方にご迷惑がかからない高さで設計しています。
質問	西側の住宅地との境界は擁壁などを組まれるのでしょうか。植栽の土を隣地のブロックや擁壁に押し付けるようなことはないでしょうか。	隣地の擁壁に寄りかかることのないようにフェンスの基礎を築きます。
質問	西八千代の地区計画の中に1.2m以下の塀の規制があります。今回計画の防音壁は約2mとのことで、規制値を超えてしまいます。他地区でも同様の事例があり、視認性が悪くなってしまったという苦情もあります。防音壁の設置は、地元要望だからやむを得ないということで進めてしまうのでしょうか。どのように整合性をとっていくのかは難しい課題ではないのでしょうか。	こども園などでは、防音壁の話題は全国区的に起きている話題ですので、一般的なこととして八千代市にも十分に理解いただくことと考えています。全国的にこのようなご要望が出ているのですから、八千代市の地区計画担当の方とはこれから話し合います。
質問	資料7ページの（屋根にある）窓を無くすということで、保育の中で光が入ってこないではありませんか。あの位置（屋根）の窓はあまり音に関しては気にならないと感じます。あまりにも周りに囲われすぎていて採光が少なくなり、子どもたちへの影響は出ないのでしょうか。	児童福祉法に定める施設ですので採光は必ず求められます。このホールのステンドグラスの上部の窓も開くようになっていきます。換気の問題も含めて考えていますが、今回は、高窓が開くと住宅地側に向かって声が抜けていくことを懸念し、住宅地側に向けての高窓を中止して園庭側に設ける変更をしました。
質問	（児童発達支援センターの）南側に車が通り抜けできないように設計変更をしていただき、児童発達支援センターの玄関前に車が旋回できるロータリーに変更していると思います。ロータリーと隣地との間には緑地緩衝という部分があるのですが、緑地緩衝帯の幅はどのくらいの幅を予定されているのでしょうか。	車が旋回する半径約6m分の植栽帯を削っていますので、残り幅は約1～1.5mあると思います。そこには生垣をしっかりと作り、ご迷惑がかからないようにとのご指示を受けております。
要望	南側に通り抜けをしないようにしていただいたのですが、できれば植栽帯を削らないで広くとっていただけるとしてほしいとお願いします。	検討します。
質問	防音壁という説明がありました。資料には防音フェンスと出ていました。フェンスということでしょうか。	遮音性能を数字としてお示しできるカタログは、表示上、一般的に「防音フェンス」となっています。全国のこども園で設置されているのは、このようなタイプの防音フェンスになっているとご理解をいただきたいと思います。
質問	今回、色々配慮をいただきました。提案の一つとして、防音壁・フェンスはかなり圧迫感があると思います。その緩和のため、防音フェンス自体を少しセットバックしていただくことは出来そうですでしょうか。セットバックしていただければ圧迫感は多少解消するのかなと思います。	ありがとうございます。防音壁については、町の景観のこともありますし、実際に建ってみると圧迫感はあると思います。効果からすると防音壁を建てるしかないと思いますが、防音壁の前に、生垣のようなものを立てれば印象が変わるかもしれないと思います。そのことは十分踏まえて検討してまいります。
質問	放課後等デイサービスの利用年齢を18歳から小学校6年生までに下げるとのことですが、小学校6年生までに変更した場合、元々の計画と比較して利用人数の変更はあるのでしょうか。	現在の計画は、児童発達支援センターが30名、放課後等デイサービスが20名です。この20名と30名の規模は変わりません。中高生の利用については地域の方の不安が大きいですので、小学校卒業で一旦区切りとさせていただこうと思います。
要望	資料の（印刷の）問題かもしれませんが、建物の色が赤と白を基調としていて目立つのかと感じます。趣味の問題でもありますが、近隣の住宅や街の景観と違和感のないものをお願いします。	説明用資料は、見やすさを優先し、色鮮やかに作成しています。色は、基本的には既存園舎と同じ考えです。八千代市の八千代都市計画地区計画に従い、既存園舎の色は八千代市の指導により配色決定しています。
質問	防音フェンスができた場合に効果としては17dB防音効果が確保出来るということだけでしょうか。	カタログ上は17dB減少と記載されていますが、これは各社一定条件を設定して防音壁を立て、その裏側で音を出して反対側で測定した数値です。

要望	音の17dBの減少は、私が今話している声が20dBくらいとした場合、5m先まで聞こえるということです。その程度の効果に460万円をかけて、圧迫感が出るような防音壁を立て、町の景観を崩してしまつては、誰も幸せになれないのではないのかと感じます。景観を壊して立てるよりも、植栽を植えた方が私は個人的には良いと思います。	防音壁については、園舎の中で出る音、園庭で出る音を心配してのことなので、それに対しては極力お答えしないといけないと思っています。あとは如何に防音フェンスを圧迫感の少ないイメージにできるかを考えさせて頂きたいと思います。見栄えの問題は、目の前のお宅からのイメージもあると思いますから、少しお時間をいただいて考えさせていただき進めていきたいと思っています。
質問	今日の説明会でもいくつかの意見があったと思いますが、基本的には今回の説明であった計画をベースに、防音壁は立てていくということで進めるのでしょうか。	そうさせていただこうと思います。
質問	変更があった場合にはこのような説明の場を用意していただけますか。	もちろんです。防音壁を立てるまでに色々な製品開発もあるでしょうし、もっと良い方法があるかもしれませんのでその時にはお諮りしたいと思います。
質問	(児童発達支援センターの玄関前に)ロータリーを作って車が旋回しないといけないのでしょうか。	子どもの施設ですので、車がバック(後進)することについては心配があるため、バックを行わずに出入りできる方法はないかと考えての計画変更でしたが、先ほどの植栽帯の幅をどの程度にできるかも含めて、隣接するお宅に改めて相談に参りたいと思います。
要望	南側の中庭の用途を聞き、納得するところもありましたが、音については南側の中庭が結構重要な位置付けになります。あの場所に中庭がなければかなり音が防げると思います。中庭があるから中庭の北側も南側も長いフェンスで囲わなければいけないということになると思うので、中庭のところに、職員の施設など持ってきていただくと全体の配置がずれて、隣の家の方にも寄らずに車の通り(旋回)ができるのかなと思いました。	南側の中庭は、医療的ケア児等を受けっていて、ほとんど動くことのできない子どもたち専用の園庭として想定しています。そのような子どもたちが、日向ぼっこや外の空気に触れて過ごすことのできる大切な場所として位置付けています。